

(No. 8) パージ・コントロール・ソレノイド・バルブなどに用いられている図1の駆動信号電圧特性をもつ図2のプランジャ式ソレノイド・バルブ回路に関する記述として、**不適切なものは次のうちどれか。**

図1 駆動信号電圧特性

(図2のV₁で測定)

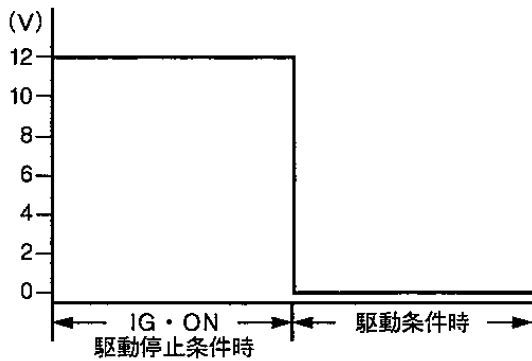
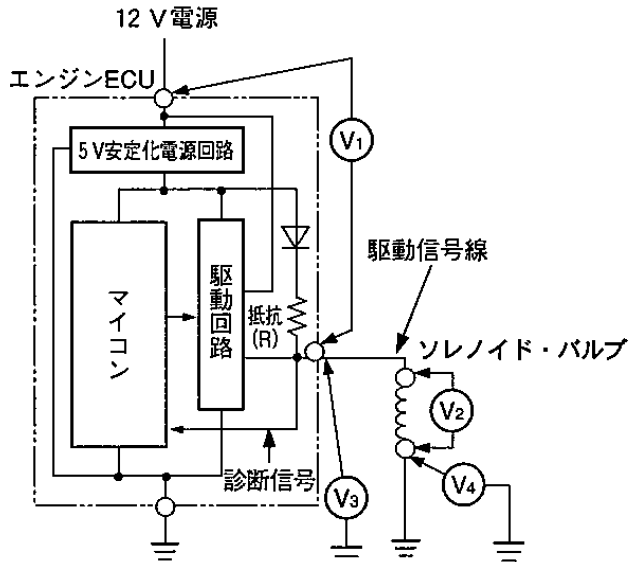


図2



- (1) 駆動条件時、V₂に12Vが発生するにも関わらずソレノイド・バルブが作動しない場合は、ソレノイド・バルブの異常（断線、接触抵抗などの増大）が考えられる。
- (2) IG・ONの駆動停止条件時、V₁に12Vが、V₃には診断信号電圧（5V安定化電源電圧）が発生する。
- (3) 駆動条件時、V₃が0Vの場合には駆動信号線の短絡（地絡）が考えられる。
- (4) 駆動条件時、V₄が0Vよりも高く発生すれば、ソレノイド・バルブ下流のアース系統の異常（断線、接触抵抗などの増大）が考えられる。

答（2）

IG・ONの駆動停止条件時、V₁に12Vが生じて、V₃に診断信号電圧（5V安定化電源電圧）が発生するとするならば電源電圧は12V+5V=17Vにならなければならない。電源電圧は12Vなので不適切。